



老舗の父の学校

日本運動本部長

小泉金次郎 (横浜3期)

『いつまでも残るものは信仰と希望と愛です』
I コリント 13:13

このところ関東でも震度3～4の地震が多発していますが、修了生の皆さんいかがお過ごしですか？ いつもお祈りとご支援を頂きありがとうございます。

日本を命がけて愛して下さった故ハ・ヨンジョ先生が召されて10ヶ月になりますが、ハ先生が広めて下さった父の学校、母の学校が益々祝されるように祈っています。修了生の皆さんの証しを通して、国内、国外から開催の間合せが届いています。修了生からは、「奉仕に参加して大きな変化がありました！」修了生の奥様方からも「主人が奉仕に参加して変りました！」「主人が父の学校に参加した後、私も変りました」と嬉しい声が本部に届いています。

昨年は日本運動本部としては初めて海外で開催（ハワイ1期）しました。そして今年ニュージャージー（メトロニューヨーク1期）の開催ができました。私たち日本運動本部だけの開催は到底

無理でしたが、現地在住の韓国の兄弟たちが管理チーム、賛美チームを献身的に奉仕して下さいました。言葉は通じなくても基本を熟知している兄弟達でしたのでスムーズに進行することが出来ました。父の学校は何処で開催しても基本は変わりません。そしてプログラムは韓国で15年、日本でも8年の実績があります。どこで開催しても同じプログラムですので、奉仕に参加することができるのです。

先日、山形2期の奉仕に行った時、本部からの奉仕者は教会に泊めて頂き、早天祈祷会に出席しました。そこで素晴らしい証しを聞きました。昨年3.11の大地震被災地での奉仕に来られた韓国オンヌリ教会の方々が、その教会に泊まり、早天祈祷会に出ました。彼らがとても喜び、感激していたのは、そこで使われていたテキストが言葉は違っても韓国と同じ『リビングライフ』だっ



6月2日(土) 運営委員会に姜・広山両元本部長と共に祈る。

たことです。彼らはその後も日本に来るたびにこの教会に交わりに訪れるという事でした。私たちもその証しに感動しました。父の学校でも祈り会や運営委員会等、奉仕者が集まる時にはリビングライフを開いて主の前に御旨を求める事から始めています。

今年度、私たちは”老舗の父の学校”を目指します。老舗は**何時でも変らない価値観と品質**を守っています。父の学校も奉仕者一人ひとりが謙遜に祈って主と志願者に仕え、黒子に徹することで聖霊様が働いてくださり、プログラムがダイナミックに働きます。まずプログラムを覚えて祈って準備をします。志願者とその家族、奉仕者、開催教会の祝福を祈ります。執り成しチームは開催中別室で課題に従って祈っています。

父の学校の映像を見て、証しを聞き、講義を聴いて、班別の分ち合いをする時に、「自分も同じだ・・・」「自分の場合はこうだ・・・」と、ちょうど雪山に一つの雪の玉を投げると、雪崩が起きるように、ダイナミックに働きます。**志願者だけでなく、奉仕者にも同じように働かれるのです。**志願者が心を開こうとしている時に、まわりで奉仕者がガサガサと気をちらす様な事をしないで、奉仕者は常に志願者に心に向けて仕えることが必要です。

特に「父親の影響力」が最初のセッション（第1課）です。ここで、「**老舗の父の学校**」になるか「今日は良いセミナーだった」で終わってしまうかの分かれ道なのです。「良いセミナー」なら父の学校の他にいくらでもあります。

父の学校は、開催場所、開催時期、参加者によって毎回異なりますので、その都度みんなで心を合わせて祈り、主に知恵を頂きつつ奉仕しています。

各地域で開催を予定している父の学校に志願者をお誘いすると共に、**修了生の皆様が奉仕にご参加くださるよう、お待ちしております。**

新潟2期 特集

開催報告 進行者： 池川 豊吉（東京3期）

前回の新潟1期は東日本大震災の翌日で、奉仕者の足が奪われました。今回は3月23日～25日に順延となり、東加茂聖書教会に会場を変更しての開催となりました。志願者は3人でした。

奉仕者は10名以上。講義には教会の子供達も参加しました。お爺さん、お父さん、子供、孫が共に学ぶ和やかな姿に、長年講義を務められた福澤先生も「初めてです！」とのこと。

日本は世界に冠たる工業国として信頼されています。生産工程の僅かなブレも見逃さず、原因を取り除き良品を出荷する仕組みがあるからです。

しかし、社会問題の面では国としての仕組みが弱く、事故や事件が後を絶たず、原因をさかのぼって社会に適用する仕組みが無いのです。

父の学校は、家庭がその機能を発揮する事で社会を変えようとしています。心の傷は家庭で手当てしなくては何処でも出来ません。愛がある所には感動が流れます。感動は魂の喜びです。

新潟2期を迎えられたのは秋 ^{しゅうは}華先生、内間先生の連携と祈りでした。感謝です。志願者の感動が薄れないように、合同同期会が計画されています。その時一緒に分かち合い、**ビジョンを再確認し、ミッションを具体化し、パッションを交換し**合い新潟3期に向けてのステップを確実に進めましょう！ 主のご計画を感謝します。

新潟2期での奉仕を終えて

金田 直人（新潟1期）

私は昨年の父の学校新潟1期を修了しました。講義の内容は非常に新鮮で、自分の中の「父親」↑



↑ のイメージが覆えされました。講義の中で一番衝撃を受けたのは「父親を許す」ということです。私は「あんな父親になってたまるか」と決意して参加したのに、父親を許せとはどういうことかと思いました。父親宛ての手紙もまとまらず暴言ばかりの脅迫文のようになってしまいました。

今年は奉仕者として参加しました。裏方で仕事もさることながら、講義の内容は前回よりも素直に頭に入り、自分の中で整理できました。

また自分の中に、父親宛ての手紙が許しの手紙に変わるという、大きな変化があったのです。手紙の終わりに「お父さん、あなたを許します」と書いて、心がとても楽になりました。父親を許さないことは自分の首を絞めることであり、父親を許すことは自分自身のためだと気付きました。

私はまだ完全に父親を許せたとはい切れませんが、これからも父の学校に携わっていくことで父親を許せる者となり、神様の御心にかなった父親に整えられていきたいと思っています。日本中のお父さん、一緒にがんばりましょう！

新潟2期 父の学校での奉仕を終えて

同期会長 大森 隆 (新潟1期)

「新潟2期の報告」

ハレルヤ！主の御名を崇めます。

東日本大震災から始まった余震の中で開設された新潟1期の火を絶やさないようにと、同期会で祈り待ち望むうちに、道が開かれて、震災一年後の今年3月23日～25日に東加茂聖書教会に於いて

「父の学校」新潟2期が開催されました。

志願者3名が主に導かれて参加。福澤牧師、及川牧師のユーモアに満ちた講義と心温まるメッセージを通して、奉仕者を含めた参加者全員がもう一度心を探られ、気が付きが与えられ、父として、夫として、また男性としての自分の存在と果たすべき役割の導きを知り、また再点検と再出発への道筋を見出す事が出来たと信じ、イエス様と聖霊様に心からの賛美をお捧げ致します。

第1期修了生の中から、自発的に山形1期に参加、奉仕なさり研修と体験を積み、喜んで今回の2期に力を注いで下さった兄弟にも心から感謝すると共に、私ども父である者たちすべての父である創造主なる全能の神様が、御子イエス・キリスト様と助け主なる聖霊様を新潟の地にも派遣下さって新潟「父の学校」を更に祝福して下さいと信じてやみません。有難うございました。

山形2期 特集

開催報告 進行者： 今井 和彦 (山形1期)

山形2期は4月28日～30日に山形市の山形南部教会にて開催されました。志願者は9名でした。

各班のチーム名は、1班：「いつもニコニコ、おもしろいパパ」、2班：「7匹の子羊、とーちゃん、主に続け！」、それぞれが緊張した面持ちでポスターを発表しました。テーブルリーダーは、1班は長野兄と及川兄、2班は鍵谷兄が務め、かけ声準備「やー！」で始まりました。

初日午後からの第1課「父親の影響力」では、山崎兄(山形1期)が父親から受けた影響を告白し、イエス様の愛でその罪が赦された、と、心に染み入る証しをされ、続いて福澤先生より、父親から受けた強烈な影響の講義を賜りました。第2課「父親の男性」では、証しは鈴木兄(山形1期)で、とても苦労された真実な証しでした。「あなたを捨てて孤児とはしない。」様々な試練の中でイエス様が共にいてくれた信仰の証しでした。講義は及川先生で、先生の赤裸々な証しは、多くの受講生の心を開きました。私たちの様々な罪は、イエス様の十字架で赦されました。「燃やす儀式」で1日目は終わり、皆「ハレルヤ！」と叫んで帰宅されました。

2日目は、第3課「父親の使命」証しは鍵谷兄(仙台1期)で、ホームスクーリングの2人の仲間から同時に勧められて参加した由。ホームスクーリングを通じて信仰が成長された証しでした。講義は再び福澤先生、ご自身の赤裸々な証しでした。40年程前、大江町教会時代の受講生も涙を浮かべながら聞き入っていました。そして、「ろうそくの儀式」で私たちは希望の時を迎え、それぞれが神様に感謝しました。

3日目(最終日)奥様同伴で、第4課「父親の霊性」長野兄(横浜2期)が父の学校の奉仕を通じて変えられたご自身の真実な証しをされました。涙ぐみつつ話された神様との関係に心打たれました。金聖守兄の講義では、霊性とは、神様との関係であることが分かりました。続いて第5課「父親と家庭」証しは井上兄(山形1期)で、井上家の「八戒」、ホームスクーリングを始めたこと、父親の模範、神様に従う信仰の成長の証しでした。小泉兄の講義では、言葉による水の結晶の話が不思議でした。愛の言葉の思いやりが大切なのですね。洗足式では奥様に仕える、涙の洗足式となりました。感動のただ中で各受講生が自ら告白し、新たな決意宣言をしました。修了式を迎え、

誓約しました。同期会の会長は鈴木兄、副会長は芦野兄、総務は斎藤兄と決まりました。献身者コーリングでは受講生が多数賛同し、起立しました。

証し 山形2期を受講して

山形2期修了生 鈴木 講治

“父が生きると、家庭が生きる”
“主よ私が父親です。”

父の学校は毎日読む「リビングライフ」の後ろに広告が載っていて知っていましたが、自分とは関係がないと思っていました。恩師でもある福澤満雄先生から「今度、山形で父の学校が開催されるから来ないか。僕も講師で参加するから」と誘われ、父の学校が身近なものに感じられました。講師が福澤先生であるなら義理にでもと思い、参加しました。

そこでいきなり「父が生きると家庭が生きる」と大きな声で告白するのです。講義を聞いてその理由がわかり、この言葉の持つ大切さが理解できました。父の存在、夫婦の有り方、父と子供とのあり方をゆっくり確認させていただきました。講師のお話や証も具体的でとてもよく解りました。

私はこの3月に愛する妻と一緒に定年を迎え、これからの歩み方を模索している最中でもあったので、これまでの歩みを整理するととても良い時間となりました。特に、今は私たち夫婦のみの生活なので、愛する妻とこれからの有り方を再度確認ができとても感謝でした。「この女により慰めを受ける。」と、みことばが与えられ、結婚して37年目を迎える私たちにとって、神様が結び合わせてくださった夫婦であることを再確認できました。何年かぶりの愛する妻への手紙と返信は感謝で涙が止まりませんでした。

洗足式はとても感動的で私の心を愛する妻に行動で示すことができました。主の臨在を感じた時でした。これからは愛する妻との毎日のデポジションを更に大切にすることを誓いました。導いてくださったスタッフの方々に感謝します。

山形2期 第1課「父の影響力」の証

山崎 啓一（山形1期）

私は父、母、姉一人という家庭に育ちました。父は市役所職員で、厳格で、優しさよりも厳しさを表現する人でした。親の言うことは黙って聞くものだ、と事あるごとに注意され、とにかく勉強をしると言われたのを覚えています。また、毎晩お酒を飲み、勢いでタクシーで飲みに行き、夜中にタクシーで帰宅、怒鳴り声が近所に響きました。母に暴力を振るうこともありました。

母はそのような父を半ば諦めたような、冷めた視線でつきあい、耐えて、特にお酒が絡むととても嫌な顔をしました。子供たちが結婚するまで自分が耐えてあなたたちを守る、子供たちの結婚に響くから離婚はできないと言って、ひたすら我慢していました。そして、そのような家庭不和の状態を世間に隠し、家族全体でいわば理想的な家族を演じることを強いられていました。

私と姉は子供ながらも、内面では父親が悪役、母親が正義の味方のように感じ、母親を助けるようにいつも考え、行動するようになりました。

私は両親が望むようないわゆる優等生となり、挨拶、成績、人当たりといった世間体を大事にしてきました。自分の考えを持てば両親の望みとぶつかるので、自分の考えを捨てました。

でも、両親はなぜ話し合わないのか、同じいさを繰り返し、母は父に言い返さないのか、そして世間体ばかり大切にすることか不思議で、不満をくすぶらせ、私は家にも嫌で嫌で安まりませんでした。優等生の自分だけが誇りで、家庭は全く自慢できないものでした。



姉はそんな両親に見切りをつけたかのように、中学でドロップアウトし、いわゆる不良となつてたびたび夜中に帰宅、または帰宅しなくなりました。私は両親に心配させる姉が悪いと思う一方、内心では息苦しい家から出ていく姉を羨ましくも思いました。

私は順調に学歴を積み、就職しましたが、その年の5月、潰瘍性大腸炎を患い、出血が止まらない難病に苦しみました。就職早々、長期休暇を余儀なくされ、優等生というレッテルは脆くも崩れ去り、残るものは何もありませんでした。

入退院を繰り返す、職場からは給料泥棒と言われました。病状は次第に重くなり、ついには大腸の全摘手術となりました。そんな時、父は「代わるものなら代わってやりたい」と私に言ってくれました。でも、私は内心、自分のことしか考えていないくせに、嘘だろう、ポーズだけだろう、と舌打ちしていました。病床においても、父を全く信頼できなかったのです。

20歳半ばで大きな挫折を味わいましたが、手術後に出会った妻となる人を通して教会に導かれ神様がおられ、私を見捨てず、私を生かしてくれたのだという思いが与えられて、神様を信じ、洗礼を受けました。

生まれ変わったクリスチャンとなり、私は喜びで一杯でした。両親とは別居し、子供も男子が三人与えられ、親の影響力なしに自分の考えで家庭を築き、子育てしようとする意欲的でした。

でも、その後私はどんどん落ち込んでいきました。妻を愛せず、子供を愛せなかったのです。私が大切に思っているはずの妻を、小さなことで罵り、日々ストレスを与え、また子供たちには、私が父親から受けたような言葉をかけるのです。小言を言う、世間体を気にする、そして妻と子供に手を出すなど。私の言動は次第に荒れていき、家

族から信頼を失っていきました。

妻は献身的に私の苦しみに寄り添い、幼い頃から受けてきた心の傷の回復のために、優しく叱咤激励してくれましたが、どうにも心に響かない。同じ過ちを繰り返し、自分の悪癖を直そうとせず妻の献身的な姿勢にあぐらをかき、嫌だった父親と同じような生き方しかできないのです。

私はやっと気づきました。これまでの自分は、他人の思いだけを大切に、他人の願いを叶えることに重きを置き、自分の考えなんか何も無い人生になっていたことに。自分が間違えるのを極端に怖がり、責任を取りたくない。全て他人のせいにしたい。自分で身につけたことは殆ど無く、生きる力が備わっていない。

私は変なプライドがあって、そんな自分を絶対に認めたくなかった。優等生で生きてきたのだから、これからの人生も家庭も大丈夫なはず。妻に家庭を任せて、自分は仕事を完璧にこなす、家庭では優しい聞き上手の夫、父親をやっていたら大丈夫。私の人生は、優しい働き者の妻がいれば安心だ。そう思っていました。

父親として家庭のリーダーの役割が全く果たせず、私の人生さえも妻に押し付けていたのです。常に逃げ回り、責任を取らず、人の顔色を伺うばかりのリーダーに誰がついてくるのでしょうか。

私はこれからの人生に強い不安を覚え、夫婦仲や子育てに全く自信を失い、自分にとっても腹が立ちました。こんな父親でもキラキラした目で私を見て、私の導きを信じている子供たちを思い、妻の最近の落胆ぶりを気にし、病気になるのではないかと、ストレスに押しつぶされそうでした。

まさにそんな時に、私は父の学校と出会ったのです。私の生きる苦しみ、悲しみ、怒りを父の学校が受け止めてくれるのではないかと期待し、昨年7月の山形1期に参加しました。

周りに振り回されてばかりの弱い自分でしたが奉仕者や参加者の皆さんに自分の人生をさらけ出して、そんな弱い自分でも良いんだと、まず愛を持って受け止めて頂きました。

子供は親の影響力から逃れにくくその影響力は何世代にも及ぶことを学びました。とすれば、私の代でその鎖を断ち切りたい、私の子供には悪い影響力を及ぼしたくない、と強く思いました。私が自分の人生をやり直せば、家庭全体が変われることを知りました。

家庭を大切にすることが自然と自分の中で受け入れられ、家庭のリーダーとして立てられている自分が愛おしく



なり、そんな自分や、共に生きる家族を大切にしたいと強く思いました。

父の学校の学びで、自分の人生が回復する確信が得られました。愛する妻や子供たちのまっすぐな視線に、優しいほほ笑みで返すことができるようになったのです。

そして、私の父の苦しみも、なんとなく解るようになりました。父と母の夫婦問題に自分が首をつっこんでいたとさえ思いました。自分と親しい人たちとの関わりを、冷静に一步引いて考えられるようになったことは大きな前進だと思います。

不良となっていた姉は、その苦しみの中で神様と出会い、受洗して、一緒に両親の救いや家庭の平和を祈り合う仲となりました。こんなことは想像もできなかったことです。

愛する妻は「変わったね、よく笑うようになったね。」と言ってくれました。ああ、私が愛する妻の思いを受け止めたいと思います。また子供たちは私とよく話すようになりました。私といると楽しいらしく一緒にいたいようです。

小学校や幼稚園、近所の友達といったものに成長を任せるのではなく、自分の家庭の中でこの子供たちをしっかりと教育したい、それにはどうしたらいいのか、といつも愛する妻と話をするようになりました。

この父の学校の素晴らしい働きを通して、多くの方々が自分の人生を回復し、ひいては平和な家庭へと導かれますよう願ってやみません。

ありがとうございました。

事務局便り

◆開催報告

- ・新潟2期（3月23～25日）東加茂聖書教会、本部担当：遠藤兄、開設リーダー：内間牧師、進行者：池川兄。
- ・山形2期（4月28～30日）山形南部教会、本部担当：遠藤兄、開設L：岡牧師、進行者：今井兄

◆今後の開催予定

1. 信州2期（7月14・16日）あずみのファミリーチャペル、開設リーダー：山口師、進行者：小岩井師、講師：金成黙長老、本部担当：小泉兄
- ・母の学校セミナー（7月14・16日）松本福音村教会
- ・家庭セミナー（15日）東御キリスト教会
2. 埼玉2期（7月14～16日）吉川チャペル、開設リーダー：池川兄、進行者：李兄、講師：福澤師本部担当：金聖守兄
3. 名古屋1期（9月15～17日）名古屋オンヌリ教会（吉原学牧師）、開設リーダー：金原兄、本部担当：金聖守兄。
4. 東京9期（10月6～8日予定）在日大韓東京教会、開設リーダー：陳兄、本部担当：李兄
5. 神戸5期（10月6～8日）神戸東部教会、講師：福澤師、本部担当：小泉兄
6. 主都福音キリスト教会（1月12, 19・20日）、本部担当：村上洋一兄
7. ロンドン1期（2013年2月8-10日）、奉仕者募集中、本部担当：李兄
8. その他、札幌2期、メトロニューヨーク2期、ロサンゼルス1期など。

◆本部の取り組み

- ・6月2日の運営委員会の時、CGNTVの故ハ
- ・ヨンジョ師の召天1周年記念番組の取材に来られ、祈祷の時の撮影を行い、姜元本部長、広山前本部長も陪席されました。
- ・今後の開催のため、開設手引き書を作成しています。

◆テキスト再編集 各ページの内容を検討中。来年の使用を目指して毎土曜日14～16時に編集作業（担当：金聖守兄ほか）

◆献金してくださった方々（2012年3～5月）

- ありがとうございました。（敬称略、五十音順）
- 3月 新潟2期献金、岩崎鉄男、匿名希望
 - 4月 沖縄支部献金、新野吉男、岩崎鉄男、大森 隆、小林 功、篠田祐司、長岡淳三、永野誠治、前島常郎、三谷泰寛、安谷 正、北村 寛、福澤満雄
 - 5月 岩崎鉄男、金森一雄、安谷正、和田三千雄、長野幸右、北村 寛、福澤満雄

今後ともよろしく願いいたします。

◆献金の送金先：新振込口座

「ゆうちょ銀行」口座（岩崎鉄男名義）

記号：10140 番号：1839181

<ゆうちょ同士の振込は手数料無料です>

他金融機関から振込みの受取口座に利用する場合

【店名】〇一八（読み：ゼロイチハチ）

【店番】018【預金種目】普通預金

【口座番号】0183918